

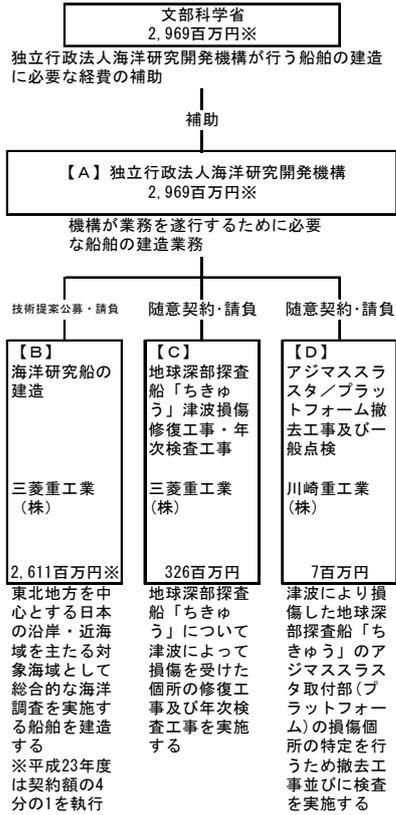
平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	独立行政法人海洋研究開発機構船舶建造に必要な経費(復興関係事業)		担当部局庁	研究開発局		作成責任者			
事業開始・終了(予定)年度	平成23年度～24年度		担当課室	海洋地球課		海洋地球課長 井上 諭一			
会計区分	一般会計		施策名	X-7 海洋分野の研究開発の推進					
根拠法令(具体的な条項も記載)	独立行政法人海洋研究開発機構法第17条		関係する計画、通知等	海洋基本計画(平成20年3月 閣議決定) 東日本大震災からの復興の基本方針(平成23年7月東日本大震災復興対策本部決定、同8月改定)等					
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	①東北沖の海洋生態系の調査を実施するために必要な機能を有する船舶を建造し、漁場回復や漁業の復興に資するデータを提供することを目的とする。 ②地球深部探査船「ちきゅう」の復旧を目的とする。								
事業概要(5行程度以内。別添可)	①東北地方太平洋沖地震とその津波により、東北沖では大量のがれきの堆積や藻場・干潟の喪失、岩礁への砂泥の堆積等により、沿岸域の海洋生態系が激変した。そのため、海洋生態系の変動メカニズムを解明し、漁場の設定や資源量予測に資するデータを提供するために、東北地方を中心とする日本の沿岸・近海域を主たる対象海域として総合的な海洋調査を実施する船舶を建造する。 ②地球深部探査船「ちきゅう」は、東北地方太平洋沖地震の津波により船底やアジマススラスタが破損したため、その復旧工事を実施する。 (補助率:定額) ※平成24年度以降は、文部科学省所管東日本大震災復興特別会計に計上している事業である。								
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他								
予算額・執行額(単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求			
	予算の状況	当初予算	0	0	0	0			
		補正予算	0	0	11,615	0			
		繰越し等	0	0	△8,603	8,603			
		計	0	0	3,011	8,603			
	執行額	—	—	2,969					
	執行率(%)	—	—	98.6%					
成果目標及び成果実績(アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値(年度)	
	(独)海洋研究開発機構の事業を実施するうえで必要な船舶等を復旧整備する。		成果実績		-	-	海洋に関する基盤的研究開発等を実施するうえで必要となる船舶等の復旧・整備を実施。平成23年度は震災で損傷した地球深部探査船「ちきゅう」の修復と東北地方太平洋沖の海洋生態系を調査する新しい船舶の建造を実施。	事業の達成上必要最低限の範囲を計画的に満たす	
			達成度	%	-	-	-		
活動指標及び活動実績(アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込	
	工事等実施件数		活動実績(当初見込み)	件	-	-	2 (2)	- ()	
単位当たりコスト	1,004 (百万円/件)		算出根拠	平成23年度執行額(3,011百万円)/工事等実施件数(3件)					
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由					
	独立行政法人海洋研究開発機構船舶建造費補助金(復興関連事業)	—	-						
	計	-	-						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	<p>・東北沖の海洋生態系は地震・津波によって甚大な被害を受けており、地元自治体からの要望書においても海洋生態系の調査研究が求められている。当事業は東北沖の海洋生態系を総合的に解明するために必要な船舶の建造であり、広く国民のニーズがある。</p> <p>・地球深部探査船「ちきゅう」は、海溝型巨大地震の震源域の掘削によりその発生メカニズムを解明し、防災・減災に資する知見を得る調査を実施する等の科学的ミッションを担っている。その達成のためには東日本大震災にて被災した船底とアジマススラストの修理に係る工事が不可欠であり、優先度の高い事業である。</p>
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	-	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	<p>・平成22年4月に「随意契約等の見直し計画」を策定し、契約の競争性、公平性、透明性の確保に努めている。</p>
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	<p>浸水が発生させた船底破口部の修理工事等を緊急的に実施した。これにより、平成23年度はスリランカでの資源掘削等を実施することができた。</p>
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	-	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。 ※類似事業名とその所管部局・府省名	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>「随意契約等見直し計画」に基づいて機構職員向けに一般競争入札の採用に関する説明会を開催し周知徹底を図ることで、機構の契約案件全体に占める競争性のある契約の割合を大幅に増加させた。随意契約については担当課内の検討チーム、契約審査委員会および契約監視委員会によって点検を実施する等の取り組みにより、一層の契約の競争性、公平性、透明性の確保、効率化を図った。さらに、調達コスト削減のために外部有識者からなる「調達コスト検討会」を設置し、コスト削減に向けた提案を受けた。その中から、平成23年度においては研究開発8法人による研究納入実績データベースの運用開始や調達情報メールマガジンの配信開始による応札者の拡大、地方拠点における入札会の同時実施による入札参加の機会向上等に取り組んだ。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	<p>1. 事業評価の観点：この事業は、海洋に関する基盤的研究開発、海洋に関する学術研究に関する協力等に取り組む海洋研究開発機構の船舶の建造に必要な経費を補助するものである。</p> <p>2. 所見：一部の契約において、随意契約による契約があることから、事業の効果的・効率的な実施を目指し、競争参加条件等により一層の見直しを図るなど、契約の競争性、公平性、透明性を確保すべきである。なお、本事業については、予算の一部を平成24年度にくりこしているが、当該予算が東日本大震災からの復旧・復興のための経費であることを鑑み、引き続き早期執行に努めるべきである。</p>		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
執行等改善	<p>契約の適正化については、「随意契約等見直し計画」に基づいて機構職員向けに一般競争入札の採用に関する説明会を開催し周知徹底を図ることで、機構の契約案件全体に占める競争性のある契約の割合を大幅に増加させた。また、外部有識者からなる「調達コスト検討会」を設置し、コスト低減に向けた提案を受け、研究開発8法人による研究納入実績データベースの運用開始や調達情報メールマガジンの配信開始による応札者の拡大、地方拠点における入札会の同時実施による入札参加の機会向上等に取り組んだ。今後も引き続き執行計画に基づき早期執行に努めていく。</p>		
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）			
<p>関係する計画、通知等： 海洋基本計画（平成20年3月 閣議決定） http://www.kantei.go.jp/jp/singi/kaiyou/kihonkeikaku/080318kihonkeikaku.pdf 東日本大震災からの復興の基本方針（平成23年7月東日本大震災復興対策本部決定、同8月改定） http://www.reconstruction.go.jp/topics/110811kaitei.pdf</p>			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	320	平成23年行政事業レビュー	0303、復興-0040、復興-0041

※平成23年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位：百万円)

国の支出は概算払いであり、法人において契約差額が生じたため、文部科学省における執行額と法人における執行額は一致しない。

A.(独)海洋研究開発機構			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
船舶建造費	地球深部探査船の損傷修復工事等	333			
計		333	計		0
B.三菱重工業(株)			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
製造	海洋研究船の建造	2,611※			
	※平成23年度は契約額の4分の1を執行				
計		0	計		0
C.三菱重工業(株)			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	地球深部探査船「ちきゅう」津波損傷修復工事・年次検査工事	326			
計		326	計		0
D.川崎重工業(株)			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
役務	アジマススラスト/プラットフォーム撤去工事及び一般点検	7			
計		7	計		0

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	三菱重工業(株)	東日本大震災で被害を受けた東北地方を中心とする日本の沿岸・近海域を主たる対象海域として総合的な海洋調査を実施する船舶を建造する	2,611※	1	※※

※(平成23年度は契約額の4分の1を執行)

※※同種の他の契約の予定価格を類推される恐れがあるため非公表としている。

C

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	三菱重工業(株)	地球深部探査船「ちきゅう」について津波によって損傷を受けた個所の修復工事及び年次検査工事を実施する	326	随意契約	—

D

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	川崎重工業(株)	津波により損傷した地球深部探査船「ちきゅう」のアジマススラスト取付部(プラットフォーム)の損傷個所の特定を行うため撤去工事並びに検査を実施する	7	随意契約	—